

BCAO 関西支部 2015 年 7 月度勉強会 (第 102 回) 議事録

日時: 2015 年 7 月 15 日(水) 18:30~20:30

場所: 大阪中央公会堂 No.6、7 会議室

司会: 速水 書記: 中村(和)

出席者: 17 名(順不同、敬称略)

萩原、鷺山、伊藤、大館、飯田、笹平、深井、平井、増穂、林、中村(謙)、濱本、齊藤、岡田、速水、野原、中村(和)

議事内容: 「職場に根付く BCP 訓練についての考察」

講師: 野原 英則氏

<勉強会に先立ち鷺山氏よりお願い>

4 月度の勉強会発表資料について、活用されるべきではあるが、講師に相談なく無断転用されたケースが発生した。勉強会の資料・内容については無断転用しない様をお願いしたい。

どうしても利用したい場合は、本人の承諾を得る様にしてください。

<PPT にて説明のポイント>

1. 今日の考察に至るまでの経緯・背景

- ・東日本大震災を契機に見直し
 - 防災の観点ではなく、経営の観点からの BCP 策定へ
- ・運用に耐えられる資料へ
 - 重要な経営資源、災害の影響の 2 種
 - 課単位で BCP 作成、本部で統括

2. BCP 策定の活動ステップ(例)

- ・生産物を考慮して重要な経営資源の洗い出し
 - 課単位で自分たちの業務は自分たちで BCP を考える→自分たちで考えないと BCP は根付かない
- ・対策を自分たちで考える
 - 影響の最小化対策
 - 早期復旧対策
 - 復旧時の代替案

3. 訓練設計

- ・作成した BCP 資料を訓練(重要な経営資源の復旧)で使う
 - 洗い出しは課単位→訓練も課単位
- ・現場で指揮する人がしっかり行動を理解できていれば、メンバは指揮者に従えばいい。
 - 指揮者がきちんと指揮できる様に
 - 現場の負担軽減のため災害時の対応をまとめた雛形文書から自分たちの部門の状況に合わせて、現場の対応手順を作成する

4. 訓練の結果

- ・事務局のメンバが全ての訓練に参加することができない
 - 各部門の訓練のレベルを一定に保つことが課題
- [対策]
- 机上訓練の進行役の教育
 - 訓練シナリオと訓練の進め方、確認ポイントの雛形を準備
 - 全体が同じ動きができる様に

5.訓練の維持

- ・自部門に合わせた行動計画作成と計画的な訓練を実施し BCP の有効性を高める
- ・各部門で自主運営できる体制の確立

6.新たな課題

- ・1 拠点で複数事業部門のある拠点は、拠点内で、優先順位付けされた経営資源の復旧が必要

7.新たな訓練への取組み

- ・複数事業拠点については拠点内で、部門間を調整した BCP 訓練を行う
 - 拠点全体のシナリオ作成

<質疑応答>

Q.行動計画表は地震が起きたときのためのものを訓練に活用する？

A.訓練のために作るものではない。

自分たちの行動を整理する(実際の災害発生時には行動計画表は見ない)。

行動指針を周知するために利用する。

Q.机上訓練は行動計画表を使って行う？どの様に運営している？

A.資料を見ないで対応できる様になってもらう。

行動計画表にないものも質問して、参加者に答えてもらう。

これらを議論し、議論に参加することで理解を深めてもらう。

Q.訓練の時間の流し方は？

A.時間の目安として話をする程度

訓練は時間通りに進めていかないといけない、ということでもない

Q.行動計画書にない事項の質問に対する答えはあらかじめ準備しているか

A.全社や、拠点で周知したいもの、周知しなければならないものは準備している

部門内で結論を出さなければいけないものは、その部門で考えてもらう

Q.訓練の回数は？

A.課レベルでは年1回、見直しを中心

各部門の業務スケジュールに合わせて自分たちでスケジュールして実施

Q.見直した際の訓練出席人数は？

A.基本は初回時と同じ人数

指揮する人が中心で、メンバは指示で動くので訓練には定常的には参加しない

Q.BCP は課単位で作るが、重要事業を決めるのは本部。その兼ね合いはどう考えればよいのか？

A.確かに本部で重要事業を決めるが、実際の災害発生拠点は、重要事業として指定されていない拠点とは別拠点かもしれない。被災拠点は、その拠点内の重要事業を優先的に復旧する。被災した範囲内での復旧を考えた場合は、自部門が復旧できる様、BCP が必要。

(時間切れ)